

1 活動名

岡谷市民病院について

2 調査概要

(1) 目的

松本市立病院の改築移転にあたり、建設試算等が妥当か知るため。

(2) 調査の必要性

建設費用が高いとの指摘があり、病院経営も赤字続きの状況。

(3) 調査項目

①建設費

②緩和ケア病棟

③経営状況

3 調査地選定理由

平成27年10月に公立の新病院を開院

4 調査結果

(1) 実施日 平成30年6月26日

(2) 出席者 2名 近藤晴彦 勝野智行

(3) 結果

① 本体建設工事費は約79億円、医療機器費用は10億円、その他含めて合計で約101億円余り。本体建設工事費を病床数(295)で割ると、約2,680万円/床になる。医療機器については、毎年数億円ずつ購入(更新)してきており、新病院へも使用できる機器はそのまま移設。新規購入機器については、放射線機器はまとめての発注条件で価格を下げるなどの工夫をした。

② 塩嶺病院に10床あった緩和ケア病棟は、新病院に移し17床(全室個室)に。平成28年度は、稼働率85.2%、診療単価も病院全体の単価を上回っている。患者の居住地は、諏訪地域の方が8割強。課題としては、平成30年の診療報酬において一定の在宅復帰率が求められており、終末期だけでなく一時入院の受け入れを含めてあり方の検討が必要。

③ 経営状況は、平成23年以降黒字が続いている。課題としては、医師・看護師等の医療スタッフの確保や費用の削減が挙げられる。

(4) 成果・所感等

視察を通し、本市立病院建設に関して、試算内容を精査する必要があると感じました。また、市長が「赤字続きの病院経営を改善するところから」と発言されるようになったことは、その通りだと感じます。

5 政務活動費

(1) 使途項目 調査旅費

(2) 支出額 浜松市に同じ